

3 - グループインタビュー調査

1 プロフィール

(1) 男女年代

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	合計
女性(東京)		3	3	2	3	11人
女性(栃木)		1	5			6人
男性(東京)	1	3		2	1	7人
合計	1	7	8	4	4	24人

(2) ライフスタイル

仕事(正社員または定期的なパート)についている	15人
結婚経験がある	16人
子どもがいる	14人
ひとり暮らし	2人
ひとり親世帯である	2人
精神疾患の経験を明言した(うつなど)	4人
子どもに障害がある	2人

重複あり

2 調査の結果

(1) 日ごろの「悩み」

「悩み」は多岐にわたり、一人が多数抱えている。
 具体的な「悩み」と認識しているものと、課題が何かかわからず、「つらい」「苦しい」「ストレス」と感じているものの2つの傾向がある。
 緊急的に解決を要する課題と長期間抱え込んでいる課題とがある。
 同じような悩みでも課題してとらえるかどうかは、個人によってかなり差がある。
 ひとりの人でも課題として認識するかどうか、時間的経過によってとらえ方が違う。

<「悩み」として挙げられた具体的項目例>

「悩み」の内容ごとに、また男女別に「仕事や収入に関すること」「自分の心身に関すること」「子どもに関すること」「配偶者に関すること」「親や親せきに関すること」「社会的なこと」に大別して整理した。なお、ひとりの人から多くの悩みが挙げられたため、内容は重複している。

	女性	男性
仕事や収入に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 安定した収入を得られる仕事の継続(30歳代、40歳代、60歳代) 私生活と両立できる働き方(40歳代) やりがいのある仕事に就いていない(40歳代) 仕事が激務(30歳代、60歳代) 仕事上のクレーム(30歳代) 勤務先で社会保険に加入してもらえない(30歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> 安定した収入を得られる仕事の継続(30歳代、40歳代、60歳代) 業績の悪化と同業種との競争(50歳代) 営業が苦手(20歳代) 仕事上の評価とストレス(50歳代) 仕事上の失敗やクレーム(60歳代) 収入減(50歳代) 同僚との価値観の相違(50歳代) 仕事が不規則(30歳代) 土日に仕事が休めない(60歳代) 健康保険に加入してもらえない(20歳代)
自分の心身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> うつ病と引きこもり(50歳代、60歳代) マタニティブルー(20歳代) 会話が苦手 近所に知り合いがない(40歳代) 社会から取り残されるという疎外感(40歳代) パソコンが苦手(40歳代) 自分の健康(60歳代) 持病の腰痛(40歳代) 肩こり(40歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康(30歳代、50歳代、60歳代) 持病の腰痛(30歳代、50歳代) 心筋梗塞(30歳代) 带状疱疹(50歳代) うつ病(30歳代)

	女性	男性
子どもに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいじめられている(40歳代) ・子どもに聴覚障害がある(50歳代) ・息子が独立して寂しい(40歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの病気(30歳代) ・子どもに障害(アスペルガー)がある(30歳代) ・娘が携帯ばかりいじっている(50歳代) ・息子が大学に行かない(50歳代) ・子どもに対する過保護な状況が心配 (20歳代、30歳代)
配偶者に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・夫が協力的ではなく、障害がある子どものことも自分にだけ任された。共感できない(50歳代) ・離婚後の寂しさ(40歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・妻が重労働で心配(30歳代、50歳代) ・妻の自分に対する愚痴(50歳代) ・家族と過ごす時間が減った(50歳代)
親、親せきに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・親の認知症や介護(40歳代、50歳代、60歳代) ・介護に伴う親せきとの齟齬(50歳代、60歳代) ・高齢の親戚へのケア(50歳代) ・親との関係がよくない(60歳代) ・実家が遠い(40歳代) ・親戚の倒産(40歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を支えてくれる高齢の母親の健康と自身の収入の維持(30歳代) ・妻と親のペースの違い(60歳代)
社会的なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・教育や行政の窓口が使いづらい(40歳代) ・窓口の対応が不愉快(40歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚と父子家庭への無理解や少ない支援(30歳代) ・携帯電話への夜中の対応(30歳代)

(2) 解決行動

「相談する」、「相談しない」、「相談したくても相談できない」、「悩み・困りごとがわからない」という傾向に分類される。

解決行動には、問題への気づき 解決への意欲 課題の整理 選択肢を得る 解決のサポートや仲間を得る といった流れがみられる。

緊急な課題解決にはフォーマルな相談を希望し、課題が解決されれば満足度は高い。

同じ悩みを持つグループでの経験、情報、悩みの共有と励ましは役に立っている。

情報の提供だけでは解決までいたらないが、情報+人(継続的な関わり)があると解決につながる。

悩みについて話す機会があると、課題に気づき、整理し、解決しようとの気持ちができやすい。悩みに気づき解決にいたるまで、一緒に関わる専門家やコーディネーターがいる場合、満足度は高い。

<「解決行動」について挙げられた具体的項目例>

「相談する」、「相談しない」、「相談したくてもできない」、「悩み・困りごとがわからない」に大別して整理した。

相談する	<p>フォーマル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものいじめについて校長先生に相談し、うまくいった。(女性 40 歳代) ・区の無料の弁護士の相談窓口を利用した(女性 30 歳代、40 歳代) ・教育相談で専門家のアドバイスをいただいた(女性 50 歳代) ・保健所からの紹介で精神疾患の方々と会うことができた。(男性 30 歳代) ・障害について福祉事務所や医療機関で情報を得た(女性 50 歳代) ・民生委員から区に言ってもらい解決した(女性 30 歳代) ・高齢者の入所施設は病院の相談コーナーを利用した(女性 50 歳代) ・消費者センターに電話した(女性 60 歳代) ・転職支援をするサービスの利用(女性 30 歳代) ・家のことについては借地人協会に相談した。 ・介護ヘルパーに助けられた(女性 50 歳代、女性 60 歳代) <p>中間領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座を契機にグループに入り、心の悩みを話すようになった。(女性 50 歳代、60 歳代) ・自宅で押し花サロンを始めた(女性 60 歳代) ・社会人サークルで出会う専門家への相談(女性 30 歳代) ・広報で講座を知り、受講して悩みを話せるようになった(女性 50 歳代、60 歳代) ・幼稚園の先生から同じ立場のお母さんを紹介されグループを作ることができた。手話の会や手をつなく親の会につながった(女性 50 歳代) ・子どもの関係で地域にコミュニティができた。(男性 30 歳代) ・幼稚園や学校のPTA役員や生協の委員を引き受けた(女性 40 歳代) ・父子家庭支援団体を作った。(男性 30 歳代) ・自分の会社ではろうの障害者を 4 人、25 年間以上雇用している。(男性 50 歳代)
------	---

相談する(続き)	<p>インフォーマル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告で施設を探した(女性 50 歳代)・インターネットで調べる(女性 40 歳代) ・専門誌で医者を見つけた(女性 50 歳代) ・障害について本で情報を得る(女性 50 歳代)・ヘルパーの友人に助けられた。 ・友達の方が相談しやすい(女性 40 歳代)・同僚と相談する(女性 30 歳代) ・友達から相談されることが多い(女性 30 歳代) ・知り合いのおばあさんから資料をもらった(女性 50 歳代) ・知り合いの区議会議員に相談した(女性 40 歳代) ・同窓会で会う友人に相談する(女性 40 歳代) ・講座を受講しフットケアの技術を身につけた。仕事がエネルギーに(女性 40 歳代) ・インターネットで調べる(男性 30 歳代、40 歳代) ・インターネットの書き込みをやり取りするうちにモチベーションが上がった。さらに研修を受けてネットワークを拡げていく(男性 30 歳代) ・ブログを始めた。定期的にコメントをくれる人がいる。(男性 50 歳代) ・マタニティブルーや肩こりは講座で解消した。(女性 40 歳代)
相談しない	<p>自分で解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かに相談して解決する習慣・経験が少ない、人と話すことが苦手(女性 20 歳代) ・仕事の経験がある。仕事上のトラブルで問題を整理し、情報を収集、解決する道筋について知っている(女性 30 歳代、50 歳代) ・インターネットで課題を共有して、自分で何とかできる(男性 20 ~ 40 歳代) <p>あきらめている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談しても解決しないと思った(女性 30 歳代) ・一度相談機関に相談して、嫌な思いをしたから相談しない(女性 30 歳代) ・敷居が高い、せっぱ詰まっている人を受け入れないイメージがある(女性 40 歳代)
相談したくても、相談できない	<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦、子ども、嫁・姑関係などは近すぎるとリアルすぎて話せない(女性 40 歳代)。 ・仕事上の悩みの場合、簡単に職場の人には話せない(女性 40 歳代) ・困ったときにはぎりぎりの状態になっているので情報を探せない(女性 40 歳代) ・介護、子育て、DVなど行政の分類にあてはまらない相談先がない(女性 40 歳代) ・行政の相談窓口がばらばらで、どこに相談にいったらよいかわからない。自分自身では的確な相談窓口がみつけれない(女性 40 歳代) ・行政に相談に行くということは、自分がだめな人間と規定したり、甘えていると思ってしまう(女性 40 歳代、女性 60 歳代) ・どんなことをやってくれるところかわからないと相談できない(女性 60 歳代) ・相談窓口で他の人に聞かれる心配があって、相談できない(女性 40 歳代) ・相談に行く余裕、時間がない(女性 50 歳代) ・公的支援が父子家庭には少ない(男性 30 歳代)
悩みがわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことによって、自分の心にある問題が顕在化してくるが、その場合は適度な距離のある人と話すことが大切(60代女性)。

(3) 望まれる支援策

グループインタビューでは一人の人間がどのように悩みごとを解決していくかのプロセスが明らかになっている。

プロセスには悩みがはっきりと意識し整理されている場合と、わからない状態から問題に気づき解決へ向かう場合に分けられるが、プロセス抜きの解決は難しいため、一人の人の悩みを全体としてとらえた支援策が必要である。

望まれる支援策として出された個々の具体例は以下のとおりである。

< 望まれる支援策について挙げられた意見 >

- ・的確に問題に対処できる専門家との出会い(女性 50 歳代)
- ・テーマに関心のある人や専門家とつながると解決に結びつく(女性 50 歳代)
- ・相談をコーディネートしてくれる中間支援組織(男性 30 歳代)
- ・紙媒体やテレビによる情報発信も重要。パソコンやケータイを持っておらずネットで調べられない人に有効。(男性 30 歳代)
- ・構えずに行ける相談窓口(女性 30 歳代)
- ・好きなことや趣味と合う部分があると行ってみようと思う(女性 30 歳代)
- ・知り合いがいらないから話せることもある(女性 40 歳代)
- ・座談会形式はいろいろ話せて面白い(女性 30 歳代、40 歳代)
- ・駅に情報誌があると手に取る(女性 40 歳代)
- ・就職セミナーのようなマッチングを行ってほしい(男性 30 歳代)

(4) 男女共同参画センターについて

男女共同参画センターについては「知っている」は4割にとどまり、「知らない」人が上回ったものの、時間帯や事業のあり方などに期待が寄せられている。

< 男女共同参画センターについて挙げられた意見 >

- 趣旨・目的など
 - ・目的がわからない(女性 20 歳代、40 歳代)。
 - ・オープンな感じがしない。どこがやっているところかもわからない(20 代女性、40 代女性)。
- 立地や時間帯など
 - ・働いていると相談に行く時間がない。夜間・休日も受け付けてほしい(女性 20 歳代)
 - ・駅に相談場所があれば利用すると思う(女性 20 歳代)
 - ・地域内だと相談に行きにくい。隣の行政区の相談も受けられるといい(40 代女性)
- センターのあり方、事業など
 - ・人が集まりやすい場所にあり男女共同参画にとらわれない催しが併設されていれば、利用してみたい。(女性 40 歳代)
 - ・センターに朝市など、野菜や趣味のものが売られている場所があったら立ち寄ってみようと思う(女性 30 歳代)
 - ・名称がかたい・わかりにくいので、愛称や安心できるフレーズがあるとよい(女性 20 歳代、40 歳代、60 歳代)。
 - ・自分の趣味にあった、気軽に参加できそうな講座や催しがあれば、足を運んでみようと思う(女性 20 歳代)。
 - ・子どもを一緒に連れて行ける場所であれば利用してみたい。(女性 40 歳代)。
- センターの情報について
 - ・相談情報が載っているセンターの情報誌をスーパー、コンビニエンスストア、幼稚園におくとよい。携帯に情報が届くとよい(40 代女性)。
 - ・地下鉄や JR 等の無料情報誌に情報を載せたらみるのではないか(女性 40 歳代)